

Method: アクティベータ・メソッド

# 神経機能の最適化による スポーツ復帰への軌跡

右肘内側剥離骨折後の「予期不安」を  
克服した中学生野球選手の症例

# 構造的限界と心理的ブロック



- 患者：櫻井くん（中学生 野球選手）
- 傷病：右肘内側剥離骨折（令和7年8月診断）
- 整形外科所見：画像検査上、骨は癒合していないが構造上は症状固定。徐々に送球開始の許可（50%）。

## The Mind-Body Gap

0

痛み（NRS）

8/10

予期不安

現状では、選手は不安が強くて投げられない。

Timeline Track

Timeline Track

# 介入手法：神経信号のエラーをリセットする



構造的な問題（剥離骨折）が、機能的・神経的な「誤作動」を誘発。

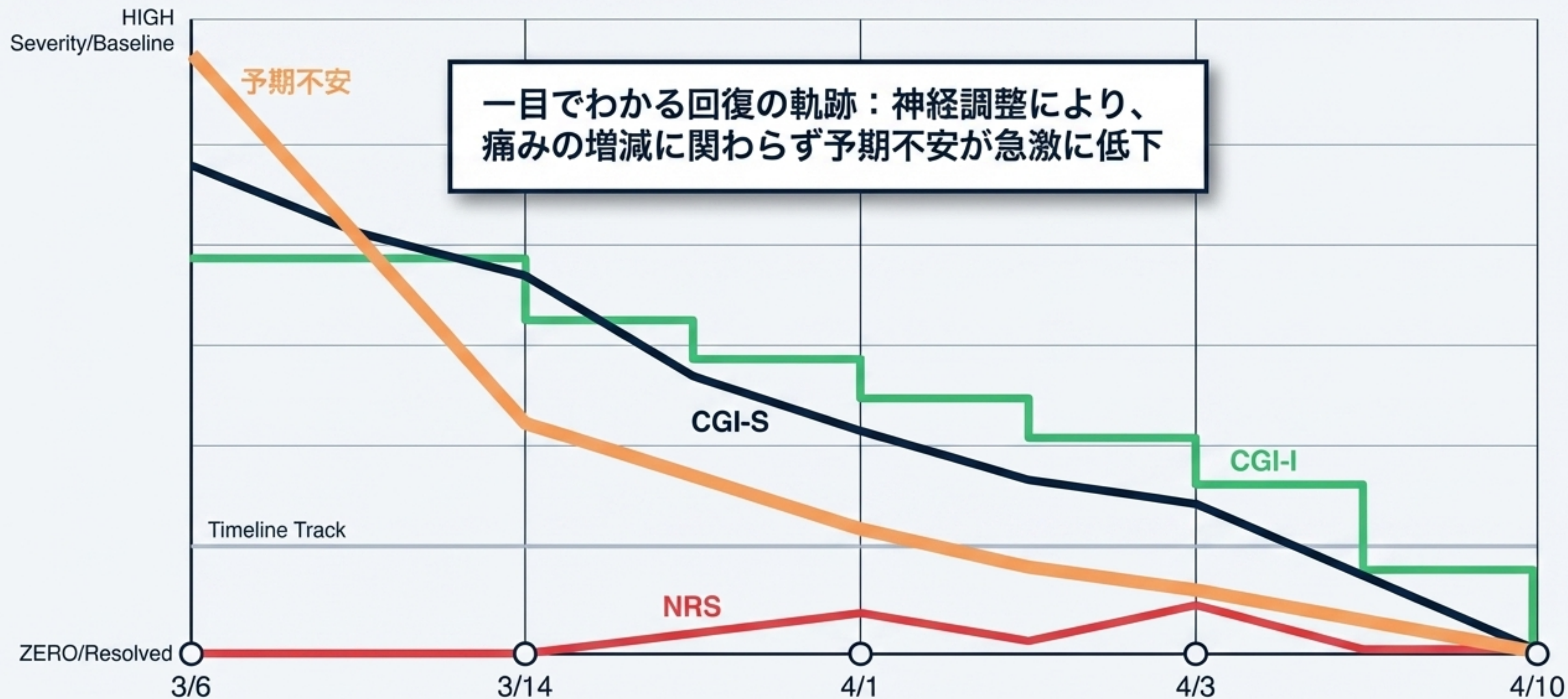
アクティベータ・メソッドによる正確な神経信号の調整。

脳と身体の通信エラーを解消し、予期不安の根本原因を絶つ。

Timeline Track

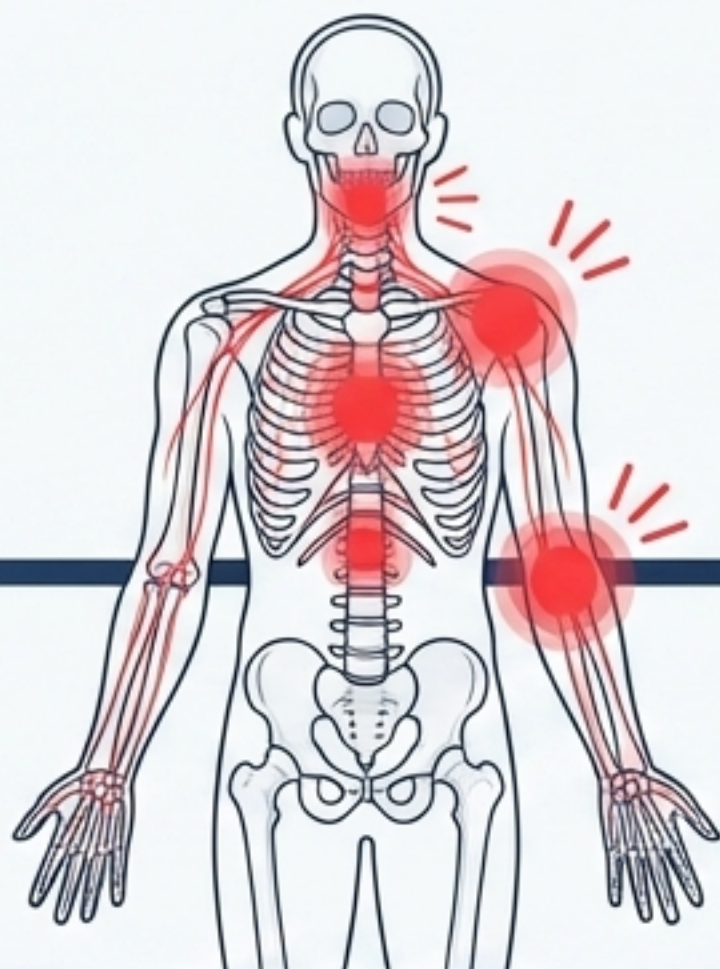


# 治療経過に伴う指標の劇的な改善



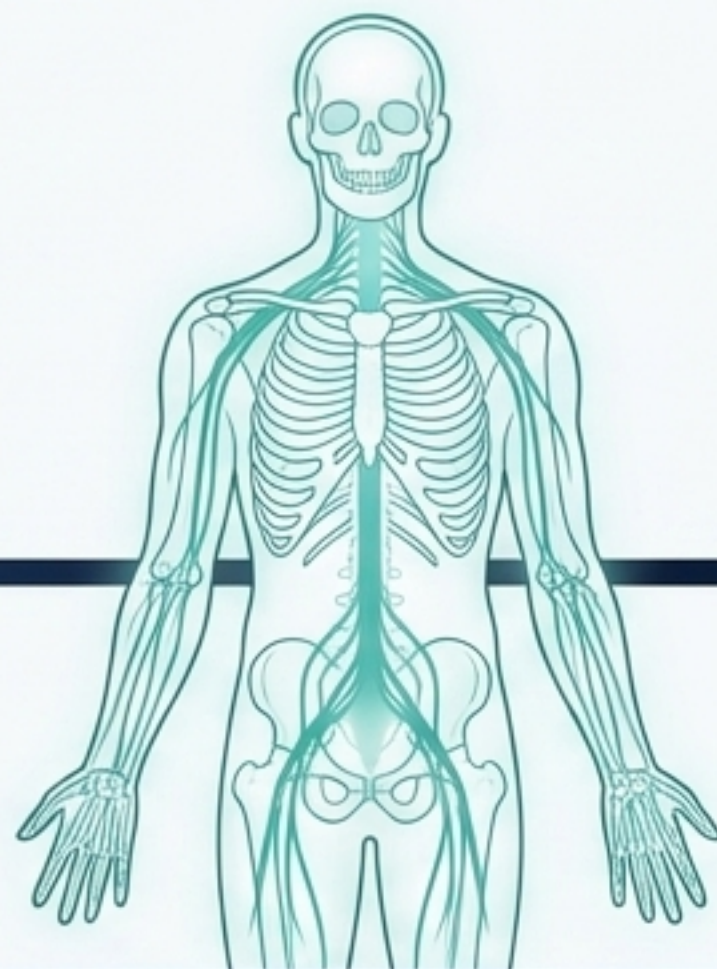
# 神経ノイズの消失：予期不安低下の身体的根拠

3月6日



Timeline Track

4月10日



脊柱、右肩、右肘に多数の神経信号の誤作動（エラー）が集中。脳が過剰な防御態勢をとる。

エラーが完全に消失。脳から身体への正しい信号伝達が回復。

100%のパフォーマンスへの帰還

**「痛みはない。送球  
ほぼ100%OK。」**

内野・ショートでの実戦練習へ完全移行

ピッチャーへの再チャレンジを開始

構造的な治療だけでは取り除けない「予期不安」という壁を、  
アクティベータ・メソッドによる神経機能の最適化が打破した。